

平成29年度行政事業レビューシート ( 公正取引委員会 )

<b>事業名</b>	競争政策研究センター			<b>担当部局庁</b>	経済取引局	<b>作成責任者</b>				
<b>事業開始年度</b>	平成15年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総務課経済調査室	木尾 修文				
<b>会計区分</b>	一般会計									
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>				<b>関係する計画、通知等</b>						
<b>主要政策・施策</b>				<b>主要経費</b>	その他の事項経費					
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	競争政策研究センター(CPRC)は、所長・主任研究官・客員研究員として独占禁止法や経済学等の専門家等の参画を得て、研究活動を行うほか、各種セミナー等を開催することによって、中長期的観点から、独占禁止法の運用や競争政策の企画・立案・評価を行う上での理論的な基礎を強化することを目的としている。									
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	①競争政策上の課題について議論を行うため検討会を開催(専門家や必要に応じて関係省庁も参加)、②競争政策上の先端的な課題について、学識経験者等が、公正取引委員会の担当部局と議論しながら、執筆者の名義・責任で行う論考(ディスカッションペーパー)を発表、③企業・実務家・内外の研究者による講演会(セミナー、BBL[Brown Bag Lunch])を開催、④競争政策の動向について理解を深めていただくため、国際シンポジウムや公開セミナーを開催。									
<b>実施方法</b>	直接実施									
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>	<b>予算の状況</b>	当初予算	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
		計	23.4	22.1	22	21.8	0			
	執行額	19.8	17.5	16.5						
	執行率(%)	85%	79%	75%						
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	85%	79%	75%							
<b>平成29・30年度予算内訳(単位:百万円)</b>	<b>歳出予算目</b>	29年度当初予算	30年度要求	<b>主な増減理由</b>						
	諸謝金	8.3								
	職員旅費	0.5								
	委員等旅費	7.4								
	経済実態等調査費	5.7								
	その他	0	0							
	計	22	0							
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	<b>定量的な成果目標</b>	<b>成果指標</b>		<b>単位</b>	26年度	27年度	28年度	<b>中間目標年度</b>	<b>目標最終年度</b>	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
<b>根拠として用いた統計・データ名(出典)</b>										

	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と26～28年度の達成状況・実績					
	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	研究活動やセミナー等の開催が活動の中心であり、政策等への反映状況について定量的な目標を設定することは困難である			<p>定性的な成果目標は、経済学者、法学者及び公取委職員で行う共同研究の実施などの活動を通じ、独占禁止法の運用や競争政策の企画・立案・評価を行う上での理論的・実証的な基礎を強化すること及び公開セミナーの実施等により競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報発信を行うことで、事業者、法曹等の実務家、行政機関の職員等における競争政策に係る理解の増進を図ることである。</p> <p>平成26～28年度において、競争政策に関する10テーマの共同研究報告書及び1テーマの検討会報告書をホームページで公表した。また、毎年度、公開セミナーを3回開催するとともに、平成27年3月、平成28年6月に国際シンポジウムを開催したところ、各回についてアンケート調査を行い、参加者の満足度はいずれの回とも高く(詳細は下記参照)、参加者にとって参考となるものだったといえる。</p>				
定量的な成果目標の設定が困難な場合	代替目標	代替指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度
	競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報発信のため、公開セミナーを過去5年間の平均と同等又はそれを上回る程度で実施	公開セミナーの開催回数	実績	回	3	3	3	-	-
			目標値	回	3	3	3	-	-
達成度			%	100	100	100	-	-	
代替目標	代替指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度	
事業者、法曹等の実務家、行政機関の職員等における競争政策に係る理解の増進により事業者等に対する競争政策の定着を図る	公開セミナーにおける参加者の満足度(※アンケートにおいて公開セミナーの内容について、「大変参考になった」を5、「参考になった」を4、「全く参考にならなかった」を1とした5段階評価の結果、「5」又は「4」と回答した参加者の割合)	実績	%	92.6	97.5	79.3	-	-	
		目標値	%	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
代替目標	代替指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度	
国際シンポジウムにおける参加者の満足度(※アンケートにおいて国際シンポジウムの内容について、「大変参考になった」を5、「参考になった」を4、「全く参考にならなかった」を1とした5段階評価の結果、「5」又は「4」と回答した参加者の割合)	同上	実績	%	96.8	-	85.1	-	-	
		目標値	%	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	30年度活動見込
	公開セミナーの開催回数		活動実績	回	3	3	3	-	-
			当初見込み	回	3	3	3	3	-
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	30年度活動見込
	国際シンポジウムの開催回数		活動実績	回	1	0	1	1	-
			当初見込み	回	1	1	1	1	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	
	公開セミナー開催に係る経費/開催回数		単位当たりコスト	円	347,136	307,851	328,486	244,667	
			計算式	円/回	1,041,408/3	923,553/3	985,458/3	734,000/3	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	
	国際シンポジウム開催に係る経費/開催回数		単位当たりコスト	円	4,429,339	-	3,131,182	4,825,000	
			計算式	円/回	4,429,339/1	-	3,131,182	4,825,000/1	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	競争政策の普及啓発等 3							
	施策	競争的な市場環境の創出のための提言等 3-3							
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標年度 年度
		公開セミナーの開催回数	実績値	回	3	3	3	-	-
			目標値	回	3	3	3	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	競争政策研究センターにおいて公開セミナーを継続的に年3回程度実施することにより、競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報を発信し、事業者、法曹等の実務家、行政機関の職員等における競争政策に係る理解を増進し、もって競争的な市場環境を創出する。								
	改革項目	分野:	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	28年度	29年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	
目標値		-	-	-	-	-	-		
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	28年度	29年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績	-	-	-	-	-	-		
	目標値	-	-	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

項目	評価	評価に関する説明
事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	昨今、競争政策の重要性が高まる中、独占禁止法の運用や競争政策の企画・立案・評価を行う上での理論的・実証的な基礎を強化をすることは、国民や社会のニーズを的確に反映しているといえる。また、国際シンポジウムや公開セミナーには、競争政策に関係する企業関係者や法曹等が多数参加していることから、国民のニーズがあり、優先度が高い事業といえる。
地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	独占禁止法の運用や競争政策の企画・立案・評価に資する研究を行って、研究成果を実務に反映させていくためには、公正取引委員会職員(国)が研究に参加するなどして、主体的に研究活動を行っていく必要がある。
政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	競争政策の企画・立案、独占禁止法の運用は、経済学に理論的基礎を置いており、政策に適切に応用していく上では、外部の研究者や実務家といった知的資源と公正取引委員会職員との間で、競争政策に関する情報を共有し、密接に意見交換を行う機能的・持続的な環境を整備することは、必要かつ適切であり、優先度が高い。
競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定に当たっては、過去に品質が良く価格も安かった事業者を含め、2者又は3者からの見積り合わせを実施して競争性の確保・コストの削減に努めている。
一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	なお、特命随意契約となったイベント会場の選定については、開催当日に空きがあること、公正取引委員会から短時間で移動可能な距離にあること、出席予定者数が着席可能な広さであることなどを要したところ、一者のみがこれらの条件を満たしたことから、当該者に委託することとなったものである。
競争性のない随意契約となったものはないか。	有	

事業の効率性	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	公開セミナー、国際シンポジウム等の講演者に対し、旅費及び謝金を支払っているところ、その金額は、規則・統一単価に基づいたものとなっている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	研究成果の普及等の事業目的の実現に必要不可欠かどうかを慎重に吟味した上で印刷、翻訳等の経費の支出の可否を判断している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	毎週金曜日に開催しているCPRC運営のための会議について、所長・主任研究官が、他の用務の都合により欠席することとなった場合、その都度、謝金及び交通費の不用額が発生するところ、平成28年度は欠席等が想定よりも多かったことなどによるもの。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	複数の競争政策に関するテーマについて、検討会やWS等を開催し、研究成果を公表している。また、競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報発信のため、公開セミナー及び国際シンポジウムを開催しており、参加者の満足度も高い。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	平成27年度に国際シンポジウムを講演者の都合により平成28年度に開催することとなったことを除き、公開セミナー及び国際シンポジウムの開催実績は当初の見込みと同等となっている。また、学識経験者などにも参加いただいで検討会やワークショップ等を開催し、研究成果を公表している。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	検討会の報告書やディスカッションペーパーについては、ホームページにおいて公表しており、競争政策に関する検討の場において、検討事項に関連するテーマに係る研究の成果物が随時参考にされるなど積極的に活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			-
	所管府省名	事業番号	事業名	
点検・改善結果	点検結果	競争政策研究センターにおいて、当初目標とした回数の公開セミナー及び国際シンポジウムを継続的に実施することにより、競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報を発信し、事業者、法曹等の実務家、行政機関の職員等における競争政策に係る理解を増進してきている。		
	改善の方向性	検討会報告書等の成果物が、実際にどのような場面でどのような方法で活用されているのかを把握することを通じて、成果物がより積極的に活用される方法を検討する。また、公開セミナー及び国際シンポジウムの開催に当たり、参加者の要望等を収集すること等を通じ、参加者の満足度や競争政策に係る理解をより増進する方法を検討するとともに、より実務に即した講演テーマを設定する。		
<b>外部有識者の所見</b>				
点検対象外				
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>				

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

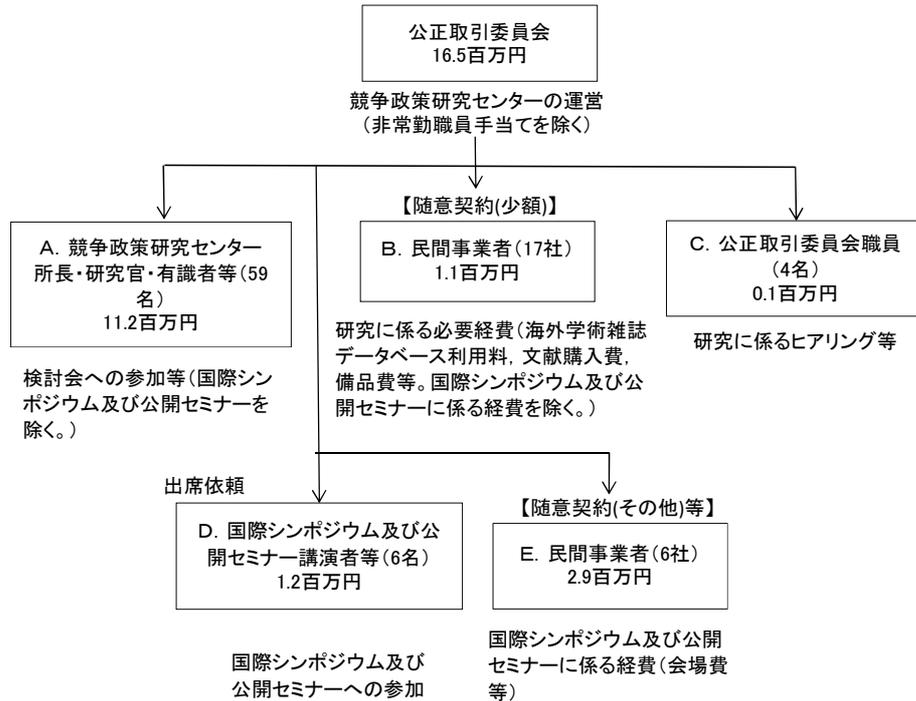
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	③(6)	平成23年度	⑩	平成24年度	⑩	
平成25年度	④	平成26年度	④	平成27年度	④	
平成28年度	④					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて  
補足する)  
(単位: 百万円)



費目・使途  
(「資金の流れ」に  
おいてブロックご  
とに最大の金額  
が支出されている)

A.個人A			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
謝金	謝金	2.3			
旅費	交通費等	0			
計		2.4	計		0

者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	E.イイノホール株式会社			F.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	庁費	国際シンポジウム会場経費	1.1			
	庁費	国際シンポジウム意見交換会経費	0.2			
	庁費	公開セミナー会場経費	0.4			
	計		1.7	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

### 支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	個人A		競争政策研究センターでの会議等への出席	2.4				
2	個人B		競争政策研究センターでの会議等への出席	1.8				
3	個人C		競争政策研究センターでの会議等への出席	1.2				
4	個人D		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.9				
5	個人E		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.7				
6	個人F		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.5				
7	個人G		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.5				
8	個人H		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.5				
9	個人I		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.2				
10	個人J		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.2				

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	ユサコ株式会社	2010401030329	論文データベースの利用料	0.4	随意契約 (少額)			
2	株式会社ハイテック	5010501025184	機器類の購入	0.3	随意契約 (少額)			
3	株式会社和幸印刷	8011101022206	共同研究報告書の印刷	0.1	随意契約 (少額)			
4	株式会社トランス・アジア	1011001016074	研究活動に係る翻訳業務	0.1	随意契約 (少額)			
5	マズワークス合同会社	3010403007563	ソフトウェアの保守サービス	0.1	随意契約 (少額)			
6	株式会社プリオコーポレーション	4070001026471	セミナー事前ミーティング会議費	0.1	随意契約 (少額)			
7	株式会社三省堂書店	7010001016830	研究活動に係る書籍の購入	0.1	随意契約 (少額)			
8	丸善雄松堂株式会社	2010001034952	研究活動に係る書籍の購入	0.1	随意契約 (少額)			
9	株式会社板前弁当神楽坂	8011101064958	BBL講師昼食代	0	随意契約 (少額)			
10	株式会社KUMAGAWAダイニング	4010401113478	BBL講師昼食代	0	随意契約 (少額)			



平成29年度行政事業レビューシート ( 公正取引委員会 )

<b>事業名</b>	政府規制・公的制度等に関する検討会議			<b>担当部局庁</b>	経済取引局	<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始年度</b>	昭和55年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	調整課	藤井 宣明			
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-			<b>関係する計画、通知等</b>	-				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国における社会・経済情勢の変化を踏まえ、政府規制・公的制度について、競争政策の観点から検討し、必要に応じて提言等を行い、また、各府省における規制の事前評価に当たっての競争評価の内容の向上を図ることで、競争的な市場環境を創出する。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	政府規制・公的制度の競争政策の観点からの提言等については、経済法や各分野で知見を有する有識者から意見を聴取するなどして、検討を行っている。また、競争評価の在り方については、経済学や規制の事前評価の知見を有する有識者を招いて検討を行っている。								
<b>実施方法</b>	直接実施								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	1.4	1.3	1.3	1	0		
	執行額	1.3	0	0.4	-	-			
	執行率(%)	90%	0%	32%	-	-			
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	90%	-	32%	-	-				
<b>平成29・30年度 予算内訳</b> (単位:百万円)	<b>歳出予算目</b>	<b>29年度当初予算</b>	<b>30年度要求</b>	<b>主な増減理由</b>					
	諸謝金	0.3	-						
	委員等旅費	0.5	-						
	経済実態等調査費	0.2	-						
	計	1	0						
<b>成果目標及び 成果実績</b> (アウトカム)	<b>定量的な成果目標</b>	<b>成果指標</b>		<b>単位</b>	<b>26年度</b>	<b>27年度</b>	<b>28年度</b>	<b>中間目標 年度</b>	<b>目標最終年度 年度</b>
	-	-	成果実績	-	-	-	-	-	-
	-	-	目標値	-	-	-	-	-	-
	-	-	達成度	%	-	-	-	-	-
<b>根拠として用いた 統計・データ名</b> (出典)	-								

		定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と26～28年度の達成状況・実績						
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	<p>政府規制・公的制度等に関する有識者からの意見聴取・検討が中心であり、政策への反映状況について定量的な目標を設定することは困難である。</p>			<p>検討会議の開催を通じて、競争政策の観点から有効かつ適切な提言を得るとともに、競争評価の内容のより一層の向上により、競争的な市場環境を創出することを目標としている。26～28年度において、保育、公的再生支援及び介護について競争政策の観点から有効かつ適切な提言が得られ、また、競争評価の手法等の検討を通じて競争評価の内容のより一層の向上に寄与したため、競争的な市場環境の創出に一定程度貢献できたと考えられる。</p>						
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度	
		<p>検討会議により得られた提言等を、規制・制度を所管する行政機関のみならずより広く周知し、競争政策の観点から規制・制度の当否、見直し等に関する議論を喚起することによって競争的な市場環境を創出する。</p>	<p>ホームページ(検討会議の成果物である報告書等)のアクセス件数</p>	実績		8,607	3,929	16,133			
				目標値		3,000	3,000	3,000			
				達成度	%	266.8	130.9	538			
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標				単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	30年度活動見込	
	検討会議の開催回数				活動実績	回	8	0	4		
					当初見込み	回	7	7	7	6	
単位当たりコスト	算出根拠				単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	検討会議開催に係る費用/開催回数 なお、競争評価の実施状況の検証については、コストは発生しない。				単位当たりコスト	円	156,952	0	103,274	166,667	
					計算式	円/回	1,255,612/8	-	413,095/4	1,000,000/6	
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラム	政策	競争政策の普及啓発等 3									
	施策	競争的な市場環境の創出のための提言等 3-3									
	測定指標	定量的指標				単位	26年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標年度
						実績値	-	-	-		
						目標値	-	-	-		
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)						
		各府省における規制の事前評価に当たった競争評価の定着及びその内容の向上による各府省に対する競争政策の定着状況	各府省における規制の事前評価に当たった評価の定着及びその内容の向上を図ることによって、各府省に対して競争政策の定着を図る。	29年度	<p>各府省における規制の事前評価に当たった競争評価の定着及びその内容の向上を図ることによって、各府省に対して競争政策の定着を図る。</p> <p>以下をはじめ、各府省における規制の事前評価に当たった競争評価の定着及びその内容の向上に努めた。</p> <p>①平成28年度に各府省において実施された規制の事前評価の件数に対して競争チェックリストを用いた競争評価が実施された件数の割合100%</p> <p>②平成28年度に開催した競争評価に関する検討会議の開催回数2回</p>						
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	検討会議を開催し、同会議により得られた提言を、規制・制度を所管する行政機関のみならず広く周知することは、競争的な市場環境を創出するという目標を達成するのに資する。										

プログラムとの関係 経済・財政再生 プログラム	改革項目	分野:	-								
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	28年度	29年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度		
		成果実績									
		目標値									
	(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	28年度	29年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度		
		成果実績									
		目標値									
		達成度	%								
	本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										

**事業所管部局による点検・改善**

項目	評価	評価に関する説明
事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	政府規制・公的制度は、その内容によっては、公正かつ自由な競争を妨げ、市場メカニズムを通じた経済の発展を阻害する場合もある。したがって、既に存在する政府規制・公的の制度について競争政策の観点から検討し、必要に応じて提言等を行うこと、また、競争評価の改善を通じ、各府省において規制がもたらす競争への影響を適切に考慮した上で規制が策定されるようにすることは、競争・市場メカニズムを通じた経済の発展に貢献するものであり、国民や社会のニーズに合致している。
地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	公正取引委員会は独立行政委員会であり専門性を有するところ、競争政策の観点から、政府規制・公的の制度の見直し等についての的確な提言等を行い、その改善等を実現するためには、このような独立性及び専門性が必要であり、地方自治体や民間等に委ねることは適当ではない。
政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	政府規制・公的の制度について競争政策の観点から検討を行うには、各分野で知見を有する有識者からの意見聴取及び一堂に会した場での議論が不可欠であり、そのための達成手段として検討会議の開催は必要かつ適切である。また、多岐にわたる規制が日々刻々と変化する中で、競争政策の観点から適宜適切に規制の検討を行うことは、競争政策全体の中で優先度の高い事業といえる。
競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	速記録作成については、法務省との共同調達による年間契約を行っているところ、業者選定の際に入札を実施することにより競争性の確保を図っている。
一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	旅費及び謝金については、規則・統一単価に基づいて支出している。
資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	会員への旅費、謝金及び速記録作成のみについて支出をしており、必要最小限に限定している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	不用額の発生は、平成28年度の検討会議の開催実績が4回となっていることなどに起因する。これは、調査を行った分野について、検討会議で議論していただく論点が絞られていたことなどによるものである。
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	経済実態等調査費の支出に当たっては、コスト削減のため法務省との共同調達の手段を用いることにより安価の調達先を確保するよう努めている。

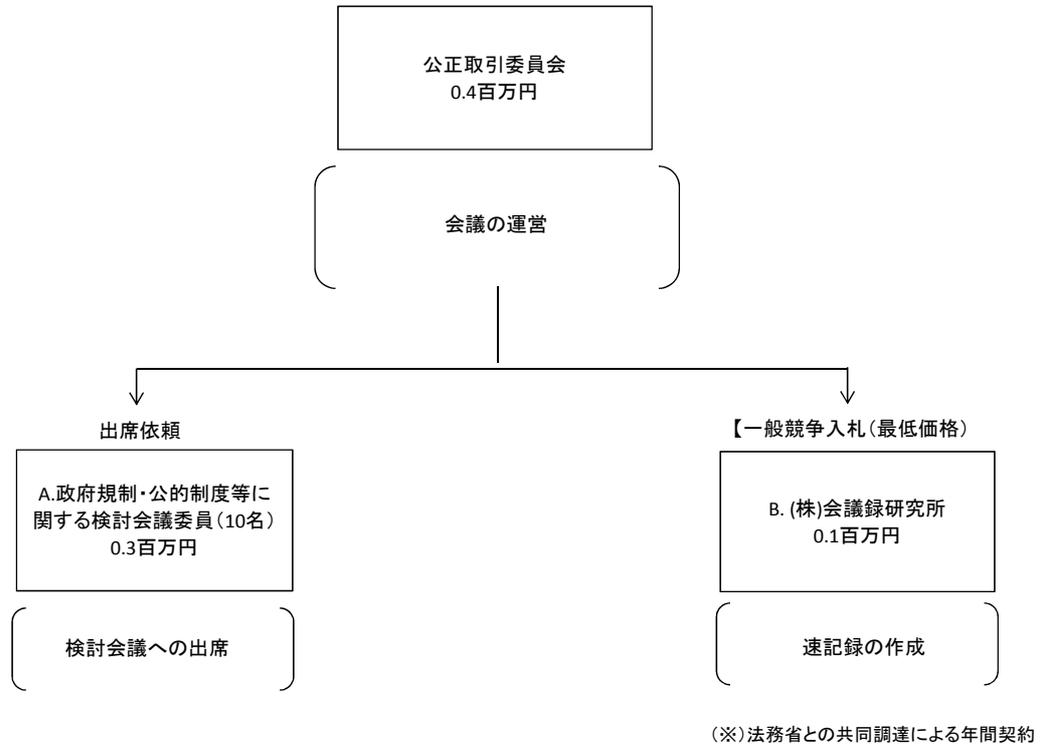
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	平成28年度においては、競争政策の観点から介護分野について考え方を整理した。これによって、多様な事業者の新規参入が進み、必要な介護サービスの供給量が増加するとともに、利用者に提供される介護サービスの質の向上が図られ、介護分野に係る課題の解決にも資すると考えられる。競争評価については、検討会議を開催し、競争評価の本格的実施に向けて検討を進めた。本格的実施によって、新設等される規制の競争への影響について各府省が説明責任を果たすことにつながると考えられる。 また、平成28年度において、代替指標の実績(ホームページアクセス件数)は目標値を大幅に上回っている。 以上のとおり、競争的な市場環境の創出に一定程度貢献できたと考えられる。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	有識者が一堂に会した場で議論を行うこと及び有識者間相互で議論を行うことにより、個別の意見聴取等他の方法に比べて、効果的に意見聴取ができている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		△	平成28年度の検討会議について、7回の開催を見込んでいたところ、4回の開催であった。介護分野に関する意見交換会について、有識者の間で議論していただく論点が絞られていたため、2回の開催となった。競争評価検討会議については、平成28年度の前半は調整課において競争評価の本格的実施後の具体的スキーム案の検討に集中していたため開催せず、同年度後半に実施した2回の開催に留まった。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	検討会議の成果物である提言等は公表し、広く国民に周知することで競争的な市場環境の創出のために活用している。
点検・改善結果	点検結果	平成28年度は、上述した理由で検討会議の開催は4回に留まる一方で、検討会議において、有識者を交えて議論をした結果、より充実した検討を行うことができた。また、政府規制・公的制度の検討会議の成果は、報告書として公表しているところ、ウェブサイトへのアクセス件数からも明らかなどおり、報告書が広く周知され、競争的な市場環境の創出に役立っていると評価できる。 したがって、引き続き、来年度以降も事業を実施する。		
	改善の方向性	引き続き、競争的な環境を創出するため、今後成長が期待される分野等について、競争政策の観点から検討を行うよう努める。		
<b>外部有識者の所見</b>				
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>				
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>				
<b>備考</b>				

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	③(7)	平成23年度	⑪	平成24年度	⑥
平成25年度	⑤	平成26年度	⑤	平成27年度	⑤
平成28年度	⑤				

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位：百万円)



**費目・用途**  
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
計		0	計		0

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック

